

USAIN BOLT
2009



プーマ ジャパン コラボプーマゴルフ事業部

炭本大空氏



ルを少し反転すればリリースできることで、オシャレなネイルにこだわる今どきの「ゴルフ女子」が使ってもネイルが外れたり剥がれたりしない、という副産物もあった。そして実際に『ツイストテック』をクルクル回したときの印象を話す。「以前より、ダイヤルがやや小さくなり少しカドが立っていて、回すときに指がかかりやすいですね。また、従来はダイヤルをリリースしたらずぐにヒモが緩む感じでした。でも『ツイストテック』は、緩むときも「カリカリ」と引っかかりながら解放されていく感じ。ラウンド中に緩んじやうなことは、だいたいなくなるんじゃないでしょうか」

通しやすく切れない ダイニーマのレース



続いて『ツイストテック』に使われているレース（繊維）の強度について。このレースはダイニーマという繊維を使いつつ、2.0ミという太さで強度がさらに増した仕様となった。本来はレースを太くすると摩擦抵抗が大きくなるが、逆にそれを減らしたことでレースをスムーズに通しやすくし、摩擦しにくい。

ダイヤルがデザインとして溶け込むんです

「パッと見はヒモなので、金属ワイヤーのほうが強そうな印象はあります。でも実は、このレースのほう

シューズのデザインとして ダイヤルが一体化する

が若干の追従性もありつつ繊維の強度もあるし、従来より明らかに太くなっているの、切れることはなかなかないでしょう。そこは信頼性につながるポイントじゃないでしょうか。また、ダイニーマの特徴として、強度を保ちながら軽量化できるというデータもあります」

「実際のところ、このレースは引張り強度も摩耗の耐久性もワイヤーより高いという。システムサイクルテスト（連続して締めつけと緩めを繰り返す）では、5000サイクル以上をクリアしている。」

また、炭本氏はそのコストパフォーマンスの優位性も強調しており、『ツイストテック』システムは高度な機能を備えているにもかかわらず

「シューズのデザインの一環として調和するようなシューズを開発できるような強みでしょう。シューズ」ことのデザインの流れに合わせ、フレキシブルに対応できます。例えば、以前のモデルはプーマのブランドロゴである「キャット」をダイヤルに載せたこともありましたが、最新モデルにはシューズに「キャット」のロゴが大きく入っていることもあり、ダイヤルは「D-I-S-C」のロゴに。プーマのシューズは基本的に、シューレースタイプじゃなければ、モデル名に「ディスク」がつきます。その「D-I-S-C」のロゴをデザインとして取り入れられることも魅力ですね」。

「ダイヤル式」の老舗、こと

プーマが26年モデルからの採用を目指す

デザインの自由度、フィット性、堅牢性に長ける

新型クロージャーシステム

Twist Tech ツイストテック

米国特許の取得済み、および国際市場向けの特許出願中。

プーマのゴルフシューズは、来年発売のニューモデルから新型のクロージャーシステム『Twist Tech(ツイストテック)』を搭載する予定という情報をキャッチした。もともと『DISC(ディスク)』というオリジナルのダイヤルを開発して特許を持つプーマが、新しいクロージャーシステムに目を向けた経緯や理由をヒアリングした。

Text by Satoru.Niida

生産効率が高いし、壊れにくくて
直しやすいところも魅力です

1/4の逆回転で
一気にリリースできる

今や一般ゴルフアールの間でお馴染みとなった、ダイヤル式のゴルフシューズ。ずっと以前から『ディスク』と呼ばれるダイヤルを独自で開発してきたプーマは、2019年からマクニール・エンジニアリング社(以下、マクニール社)とライセンス契約を結び、クロージャーシステムの共同開発をスタートした。

マクニール社はもともとスパイクを開発するメーカーで、フットウェアのコンポーネントの開発・製造・供給に実績がある。そして、新型のダイヤル『ツイストテック』は、マクニール社オリジナルのクロージャーシステムとして開発された。プーマジャパンのコブラプーマゴルフ事業部・炭本大空氏はこう話す。

「プーマはこれまでに、サッカー用やランニング用のシューズで一部、マクニール社のスパイクを採用していました。そういう背景がありつつ、餅は餅屋じゃありませんが、シューズの開発に強みがあるプーマが、付属品などの開発に強みがあるマクニール社にクロージャーシステムを依頼することで、より良いシューズが作れると考えていま



※写真は現行モデルのシャドウキャット コトロ ディスク

マクニール社の『ツイストテック』の調整機能について、リリースするときにはダイヤルを引く、張る、タイプとの比較を交えて、こう述べる。

「コースでは歩くことが多いし傾斜地がけっこうあるので、レースに負荷がかかると若干ですが緩んでしまうことがあります。そういうときにダイヤルを回すことで、ミリ単位で細かい調整がカンタンにできるのが優れているところ。カートに乗っているときなどは、足が疲れたら、カチッと逆回転すればワンタッチで解除できるし、リリースするときは正方向に回せばすぐ締められます。

そして『ツイストテック』の採用を検討する理由をこう述べる。「ダイヤルのパーツが少なく、構造が簡素化されているので、生産効率の向上や不良品の減少、壊れにくくて直しやすい、というところが期待できます。レースが太いほうが、ダイヤルの中で絡まりづらく巻きやすい、という利点もあるでしょう」

イージー&力いらずで
フィット感が自由自在

「コースでは歩くことが多いし傾斜地がけっこうあるので、レースに負荷がかかると若干ですが緩んでしまうことがあります。そういうときにダイヤルを回すことで、ミリ単位で細かい調整がカンタンにできるのが優れているところ。カートに乗っているときなどは、足が疲れたら、カチッと逆回転すればワンタッチで解除できるし、リリースするときは正方向に回せばすぐ締められます。」

